

ガール・スカウト川崎連絡会

25周年記念

海外研修旅行報告書

(スイス・ユーゴスラビア)



1987年8月17日～30日

ガール・スカウト神奈川県支部
川崎連絡会

目 次

日 程 表		2
ごあいさつ	団長 芦垣 秀代	4
活 動 記 録		5
感 想 文		15
貴重な経験でした	大 屋 千 穂	15
心が通じた交流会	小 川 由 布 子	16
私のリエカ海派研とは	三 浦 珠 美	16
旅行の感想	小 林 理 恵 子	17
楽しかった海外	西 森 春 江	18
海外研修旅行の感想	長 尾 晃 子	19
ヨーロッパへ行って	中 村 古 都	20
感 想 文	木 内 明 子	20
海外研修旅行へ行って	仁 上 亜 砂 子	21
感 想	藤 本 詠 子	22
海外研修旅行	小 川 か お り	23
感 想 文	三 島 麻 里	24
海外研修を終えて	佐 藤 未 央	24
はじめて行った外国	佐 藤 由 香 里	25
ユーゴの青年達	清 水 夏 子	26
親愛なるリエカ	小松原 美 帆	26
ユーゴスラビアでの思い出	浜 野 珠 美	27
リエカに行って	奥 村 祐 子	28
海外研修の感想	倉 田 麻 子	28
思い出のユーゴスラビア	山 本 智 子	29
体験を生かして	小 林 美 年 子	30
ヨーロッパ研修旅行	佐々木 れい子	31
欧州交流派遣に参加して	畑 千 春	31
欧州交流派遣に参加して	清 水 嬉 子	33
欧州交流派遣を終えて	大 倉 田 鶴 子	33
旅行に参加して	芦 垣 和 代	34
2週間の研修旅行を終えて	西 恵 理 子	35
スイス・リエカ海外研修を終えて	佐 藤 千 鶴 子	36
海外研修に参加して	辰 己 恵 津 子	36
20数年ぶりのヨーロッパ	山 本 光 子	37
研修旅行に参加して=友達との再会=	農 宗 富 美 子	38
海外研修旅行に参加して	竹 中 千 穂 美	39
ま と め		40
事 前 研 修		42
参 加 者 名 簿		43

日 程 表

時 日	8月17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)	22日(土)	23日(日)
30			起床				起床
7			朝食	起床			朝食
8			朝のつどい 出発	朝食		起床 朝食	ミラノ出発
9			ベルナー・オー バーランド 観光	荷物整理	起床 朝食		
10			ユングフラウヨ ッホ頂上へ登 山電車で登 る	朝のつどい	自由	ミラノ 市内観光	ベローナ着
11		チューリッヒ着 専用バスにて チューリッヒ 市内観光		コーラス 練習	コモ出発		ミニ観光
12				昼食	ミラノ着		
1		昼食	昼食	出発 アデルボーデン へ	昼食 ホテル	昼食 レストラン	昼食 レストラン
2		途中観光を しながら インターケーラン へむかう			公園にて コーラス オドリ練 習		ベローナ 出発
3				アワジャレー着 説明と 舎内見学		観 光	リエカ市へ
4	多摩区役所 集合 出達式		グリンデルワルド の町を散策	自由散策			
5	出発 成田空港へ			出発 センター をあとに	自由		
6		インターケーケン ホテル着 部屋わり	ホテル着			自由	リエカ市着 リエカ市職員 との打合せ
7		夕食	夕食		夕食	夕食	荷物整理
8				夕食			夕食
9		実行委員会 パトロール ミーティング	実行委員会		実行委員会	実行委員会	
30	英国航空 にて出発						実行委員会
10	アンカレッジ 経由	タップス リーダー会	タップス リーダー会	コモ湖 ホテル着 タップス	タップス リーダー会	タップス	タップス

時	日	8月24日(月)	25日(火)	26日(水)	27日(木)	28日(金)	29日(土)	30日(日)
	30	起床				起床	4:20 起床 5:00 出発 ミラノ 空港へ	
7		朝食	起床	起床 朝食	起床 朝食	朝食		
8		出発 リエカ市長 表敬訪問	朝食	出発	出発	出発 リエカ市より 車中朝のつ どい ベネチアへ		
9		車中 朝のつどい		赤十字社 訪問	青少年同連 本部訪問			
10		こん談 プレゼント 交換	出発 スカウト会 訪問	活動の説明	市内観光		ロンドン 経由	成田空港着
11		青少年同盟 訪問交流		交流 電話局見学				
12			交流 昼食 野外	昼食		ベネチア着 昼食		
1		昼食	パーベキュー					
2		出発	交流	電話局出発	昼食	観光へ出発		多摩市役所 着
3				ホテル着	コーラス・ 踊り練習	ベネチア 観光		報告 解散
4			ホテル着	水泳 カリブ海 赤十字青少 年と合同	自由			
5		ホテル到着	実行委員会					
6		自由		散策				
7		夕食	夕食 ユーゴ料理 レストラン にて	夕食	出発 サヨナラ パーティー	ホテル着 夕食		
8				ユーゴスラビア 民族舞踊見学		実行委員会		
9		パトロール ミーティング				パトロール ミーティング		
10	30	タップス	ホテル着 タップス	タップス	ホテル着 タップス	タップス		

ごあいさつ



団長
芦垣秀代

ガールスカウト川崎連絡会が、創立25周年記念事業として実施した姉妹都市訪問研修(61年度ポルチモア・62年度リエカ市)も、行政ご当局の深いご理解とご支援を賜り、多くの成果をあげ、ここに報告書をまとめることができました。

2カ年にわたる姉妹都市での交流をとおして、また途中訪れた幾つかの国や都市で、スカウトたちは、わたしたち日本人と同様に、どこの国にも・都市にも、色々な人間がおり、様々な暮らしがあること、そして、それぞれの国の人々が自らのアイデンティティーを大切に育て、独自の生き方を求めながら、他の国の人々との友好、交流を望んでいることなど、国際感覚を肌で感じ、学ぶことができましたようです。

国際化時代といわれ、わたしたちの生活と深く係わる多くの分野で、国際的な取り組みが進みつつある今日、これからの時代を担うこどもたちにとって必要なことは、ひとりひとりが国際感覚を身につけ、成長することではないでしょうか。その意味からも海外研修が続けられればと願っております。

おわりに、ご父母のご理解と団委員長・リーダーのみなさんの献身的なご努力のおかげで、本事業が達成できましたことを心から感謝申し上げます。

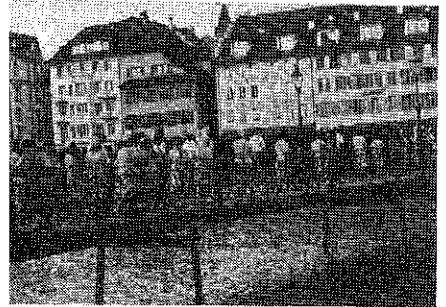
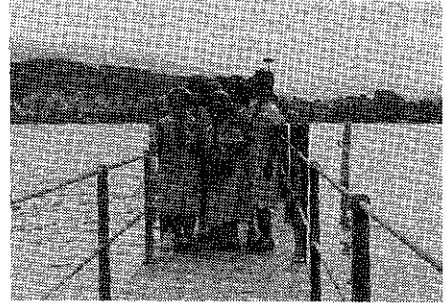
活 動 記 録

8月17日(月)

記入者 大屋千穂

1. 行動のメモ

- 16:00 多摩区役所集合
出達式。池田教育長より激励のことばをいただきました。
- 17:00 多摩区役所前よりバスにて成田空港へ出発、車中にて添乗員の星野さんよりパスポートと出入国カードが各自に手渡され出国手続の説明を受ける。軽い夕食をとる。
- 21:30 成田空港出発。英国航空BA006便アンカレッジ経由ロンドンへ向う。



8月18日(火)

記入者 大屋千穂

1. 行動のメモ

- 7:30 ロンドン着。少し遅れて着いたので急いで612便に乗りかえる。
- 10:40 チューリッヒ着。ミルカさんの出迎えを受けホッとす。空港でフランに換金する。
- 11:25 バスにてチューリッヒの町を観光しながらルツェルンへ向かい、ルツェルン湖のそばのレストランで昼食をとり、また観光をしながら今日の宿泊地へと向う。
- 17:20 インターラーケン、ローヤルホテル着

19:30 夕食
22:00 消灯

2. 感想

ライオン記念碑を見た時は今にも動き出しそうに造られていてビックリ、とても細かいところまで美しくできているのですから……。

その後のカベル橋で、あゝここがスイスカあーとしみじみ感じました。きれいな花で飾られているうえに、たくさんの絵がありました。

大寺院の豪華さにもおどろかされました。飛行機でぐっすり寝たにもかかわらず、ドッと疲れが出てねむいです。始めて見たもの一つ一つに驚かされて本当に感動して疲れしました。幸せです。おやすみなさい。

8月19日(水)

記入者 小川由布子

1. 行動のメモ

- 6:30 モーニングコール
ぐっすり眠って気持ちいい。
- 7:15 朝食。とてもおいしかった。
- 8:15 玄関集合
- 8:20 朝のつどい。ホテルの庭で
- 8:30 ホテル出発
- 8:45 バスを降り登山電車へ、寒～い。
- 9:05 Kollektblett 発
- 10:00 一度降り乗りかえ(アイガー)
- 10:02 出発
- 10:23 5分休み。本当に寒い。
- 10:37 アイスメール着
- 10:55 ユングフラウヨッホ着
- 12:08 出発。その間水の祭典を見たりした。
- 12:58 クライネ・シャデック着

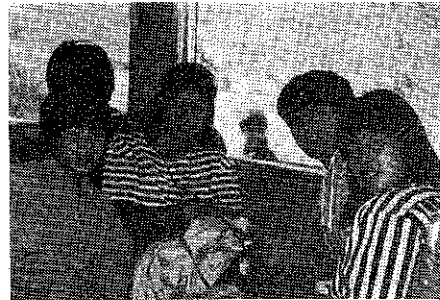
レストランにて昼食後自由に散

策

- 15:08 クライネ・シャデック出発
- 15:56 グリンデルワルド着
ショッピング等自由
- 17:00 出発
- 17:30 ホテル着
自由時間
- 19:30 夕食
- 21:45 パトロールミーティング
- 23:15 消灯

2. 感想

水の祭典は日本のものばかりだったけれど、とてもきれいで感動しました。登山電車もなかなかよかったです。夕方の自由時間に町を話しながら歩いたのが楽しかったです。少し慣れた所でスイスを発つのはさびしいけれど、イタリアに行ってもどこに行っても、スマイルを忘れずに行っていきたいです。

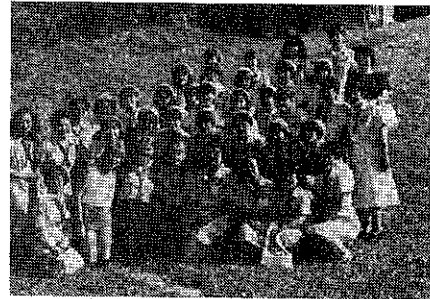


8月20日(木)

記入者 藤本 詠子

1. 行動のメモ

- 7:30 モーニングコール
- 8:00 朝食
- 10:15 朝のつどい
うたの練習
- 12:00 昼食
- 13:00 ホテル出発
- 15:00 アワジャレー着
- 17:00 アワジャレー出発
コモ湖へ向う
- 20:30 夕食 レストラン・アイロロにて
- 21:45 出発
- 23:30 コモ湖着



2. 感想

今日は良い日だった!

アワジャレーでめがねをかけて、おさげのかわいいお姉さんに、何故こゝにアワジャレーがたったかというお話や、アメリカから贈られたおもしろい戸棚のお話を聞いた。アワジャレーは思ったよりすっきりとしていたけれど、まわりの自然はすごかった。木をくり抜いて出来た水のみ場の水はさいこーだった。もう一度来て、今度はあのかわいらしい部屋に泊ってみたいなあと思う。今日のガイドの安藤さんは、なかなかすごい人の様な気がするのである。あの目の輝きはただものではない! チーズくさいグリンデルワイルドに住んでいるお姉さんである。このお姉さんに歌を二つもおそわった。おもわず口ずさみたくなるよーな楽しい歌であった。おかげでバスの中ではたいくつせず楽しく過ごせた。再びバスに乗りスイス国境を越えイタリアへ入国、コモ湖に到着、長い道のりであった。

8月21日(金)

記入者 小川かおり

1. 行動のメモ

- 8:30 モーニングコール
- 8:55 荷物回収(ドアの前に出す)
- 9:00 朝食
- 10:00 パトロール毎
にコモ湖周辺の
自由散策
- 11:15 ミラノへバス
で向う
- 12:30 ホテルに到着
- 13:10 昼食
- 14:30 公園にて踊り
の練習
- 16:00 パトロール毎
に自由行動
- 20:00 夕食

メニュー
パン・紅茶
ヨーグルト・ミルク
フルーツ
ジュース
コンフレーク Hot!! 

メニュー
スパゲティ
ひら目
ポテト
アイスクリーム

21:15 パトロールミーティング後タ
ップス

2. 感想

今日はすごくよく歩いたと思います。朝、コモ湖周辺の散策をして、昼にはミラノの街をショッピングですね、かおりはこの買物ですごく欲しい物や洋服ができてしまい、すごく悔しいのです。だってイタリアはスイスも同じだけど、Fashionがいい。おもわずウインドーショッピングに時間をかけてしまいました。

8月22日(土)

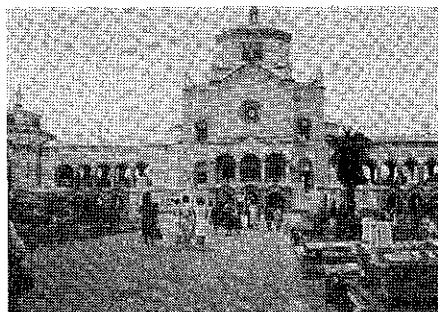
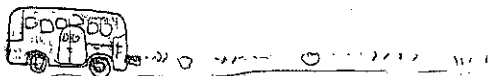
記入者 西森春江

1. 行動のメモ

- 7:30 モーニングコール
8:00 朝食
9:10 ホテル出発。車中にて朝のつどい
9:20 記念墓地着(ステキな像がたくさんあった)一日市内観光でミラノ城(スフォルツェスコ城)やがいせん門の説明を聞き、スカラ広場を通りドウモ教会、サンタマリアグラマテン教会等の見学後ショッピングを行う。
19:00 夕食。ホテルを出て中華料理店にて
21:15 ホテル着。ミーティング後タ
ップス

2. 感想

今日はいろんな所へ行って楽しかった。ガイドさんにもたくさんの説明を聞いたし……。



8月23日(日)

記入者 佐藤未央

1. 行動のメモ

- 6:30 モーニングコール
7:00 スーツケースを部屋の外に出して朝食
8:00 バスで出発! めざすはベローナ
10:40 ベローナ到着。自由行動
13:30 再びバスでリエカをめざして出発(バスの中で歌、ことばの練習)
16:40 きびしい入国チェックを受けユーゴスラビアへ入る
18:30 オパティアホテル着
20:00 夕食
21:45 パトロールミーティング後タ
ップス

2. 感想

6:30分のモーニングコール、まだ眠いと思ったけど今日は日誌の日と思いパッとおきました。外を見たらまだ暗の、少し寒いし……、朝食の時間ごろになるともうすっかり目もさめました。さあベローナに向かって出発、バスに乗ったとたん眠くなって……うとうとしているうちにベローナに着きました。わア! ロミオさんのお宅とジュリエットさんのお宅を見ました。とにかく感動、とくにジュリ

エットさんのお宅に行ったときなんか…
…こゝで昔二人のロマンスが花をさかせ
たと思うと、私も早くロミオとジュリエ
ットのような恋をしたいわとガラにもな
くロマンチックにひたっていた私であり
ました。この旅も半分を過ごしました。
これから後半は本当の目的に入ります。
リーダーやパトロールの人たちに迷惑を
かけないように、しっかりしようと思ひ
ます。



8月24日(月)

記入者 清水夏子

1. 行動のメモ

- 8:20 ホテル出発。いよいよリエカの
生活の始まりです。
- 9:00 リエカ市長を訪問する。数人の
青年と友達になる。
- 10:00 市役所を出発、バスの中で青年
達とコミュニケーション。
- 12:40 青年団のキャンプ場、少し迷い
ながらも到着。責任者の挨拶と説
明。
- 13:50 昼食。小さな交換会

2. 感想

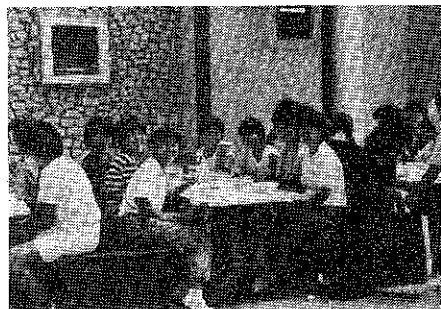
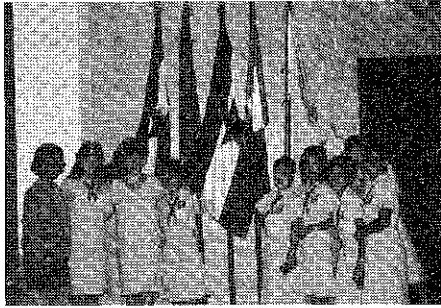
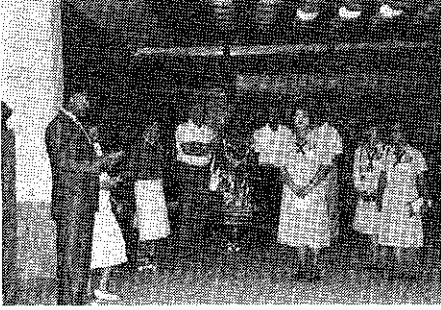
今日はヨーロッパに着いて初めて青年
達との交流らしきものがあつたが、時間
が短かつたし、みんなが集まっている所
へ行けたわけでもないの、最初に会
つた数人としか知り会える機会がなかつた。

キャンプしている青年達は活気があつ
て、私より数十倍充実した夏を過してい
るように思う。とにかく元気があつた。
毎朝4時頃起床し6時からお昼まで働く
ことに関しては、少し不安があるが、機
会があればぜひ参加してみたいと思ふよ
うなものであつた。とにかくもっと時間
をかけてゆつくりと彼等の生活を見たか
つた。

ホテルでの生活のしかたが、少し悪い
と思ふ。もう少し気を使うべきでしょう。
それと横断歩道の渡り方にも少し配慮が
必要だと思ふ。他人からいつも見られて
いる事を忘れないでいたいと思ふ。

8月25日(火)

記入者 大屋千穂



1. 行動のメモ

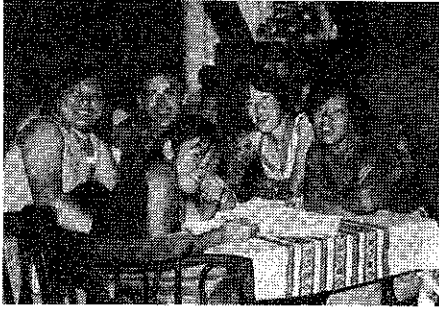
- 8:00 モーニングコール
8:30 朝食
10:00 ホテル出発。スカウト会のキャンプ地へ。途中でリエカの友達に乗りバスの中で交流が始まり、お話をしたりうたったりした。英語がなかなか通じなくて大変でした。
11:30 キャンプ場に着くが雨のためレストランに入りプレゼント交換をしたり、うたったり楽しい交流が続く。
昼食はバーベキュー。外でスカウト会のメンバーが雨の中、焼いてくれた。
15:35 交流会もおわりバスでホテルに向う。
19:00 夕食のため車でレストランへ
23:00 ホテル着

2. 感想

今日はユーゴのスカウト会との交流会でした。SONGひとつにしてもユーゴのスカウト達はとても楽しく元気にうたってくれました。英語がうまく使えなくて大変でしたが、なんとかお話をしたりできました。帰りのバスの中では少し体調が悪くなり眠くなってしまい、ユーゴのお友達に悪いことをしてしまった。あいにくの雨で残念だったけれども、たくさんの楽しくてステキな思い出ができました。

2. 感 想

今日は水泳もしたし、踊りも見れとても楽しかった。とても思い出に残るサイコーの日でした。リエカにはあと少ししか居ないけど、残り少ない時間を有効に使いたいと思っています。

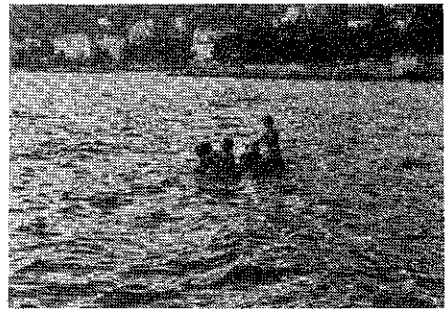


8月26日(水)

記入者 小川由布子

1. 行動のメモ

- 7:00 モーニングコール
- 7:30 朝食
- 8:30 ホテル出発
- 8:55 リエカ市赤十字会事務所に到着。
交流を行ない、その後再びバスで輸血センターに行きセンター内を見学、センターの皆さんと昼食をいただいた。
- 13:50 ホテルへ帰り自由時間となり、アドリア海で泳ぐ。その後リエカのお友達とショッピング。
- 19:00 夕食
- 20:45 野外劇場でユーゴスラビアの民族舞踊を見る。



8月27日(木)

記入者 三浦珠美

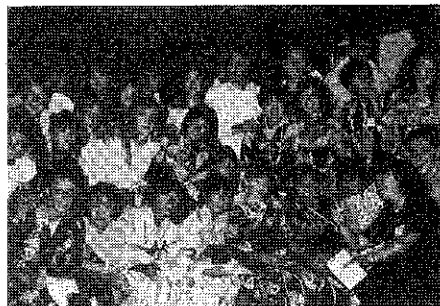
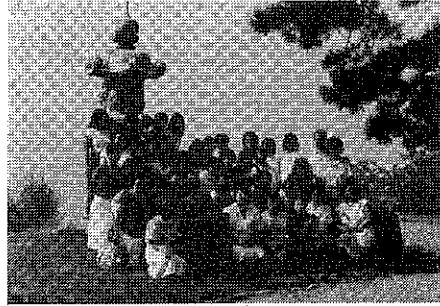
1. 行動のメモ

- 7:00 モーニングコール
- 7:30 朝食。メニュー：パン、目玉焼、ジュース、コンフレーク、紅茶、コーヒー
- 8:30 バスにて青年同盟本部に行き、活動の説明を受けプレゼントを渡す。
- 10:00 同本部を出発、市内見学に向う。マーケット、野菜市場、魚市場等を見学後、6年前に川崎市が贈った石どうろうのある公園に行き一同記念写真を撮る。
- 11:15 ホテルに帰り自由時間。泳いだり、ショッピングをし昼食後、お別れパーティーの準備に入る。
- 19:00 お別れパーティーの会場に着きお客様を迎えパーティーが始まった。
- 0:30 ホテル着
リエカでの日程おわる。

2. 感想

今日はリエカ最後の日であった。パーティーは最後まで盛りあがって楽しかった。バスに乗る時、ほとんどの人が泣いていた。来てよかったと思った。どの人も友達がいっぱいできたみたいであった。

今度来る時は、英語を話せるようになっていたい。夜おそかったので、ちょっと眠かった。



8月28日(金)

記入者 小林理恵子

1. 行動のメモ

6:30 モーニングコール

7:00 朝食(パン、コンフレック、オムレツ、牛乳、ジュース、紅茶、コーヒー)

昨日、23:30 ごろピザを食べたのでお腹は空ていないが、これを食べないとお腹が空いてしまう。つらかった!

8:05 ホテルを出発、リエカの皆さんに別れを告げ、再び国境を越えてベネチアに着き昼食をとる。

13:55 ホテル出発、水上タクシーに乗る。

サンマルコ大寺院、ガラス工場等を見学し少しの間フリータイム。そして、待望のゴンドラに乗る。

カニがいた。ネズミが走っていた。ゴンドラを遊園地の観覧車だと思っていたのでびっくりした。

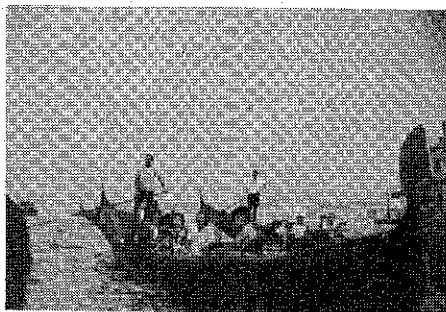
又、水上タクシーに乗りホテルへ帰る。

19:50 夕食。ミーティング後、明朝の準備をして寝る。

2. 感想

今日で私を妹のように可愛がってくれた、MIRJANAともお別れ、昨日とてもユカタを欲しがっていたので着かたを書いて一緒にあげた。小さいサイズだけど……って言ったら、とても喜んでしまっ
て涙ぐんでいた。私も泣いてしまった。ネックレス、ブレスレットとピアスのセットをもらった。ピアスは今ちょっとできないけれどうれしかった。何度も手紙を書くように二人で言った。私はリエカ

にもっといたかった。もっとリエカで交流を深めて来たかった。いろいろな団体と交流をしたけれど、一日ずつの交流だったから“広くて浅い”交流だった気がした。もっとアドリア海のように“広くて深い”交流であつたらよかつたと思う。



8月29日(土)

記入者 山本智子

1. 行動のメモ

5:00 MOTEL AGIPを出発した。もちろん朝の5時である。支度は昨夜のうちにバッチリやっておいた。髪型は決っていないが、ラクに出発することができた。

空港に着いてバスを降りた。もうすっかり夜は明けていた。アリタリア航空に乗ってミラノからロンドンに着いた。アリタリア航空でトイレに入っている間に、シートベルト着用のサインがあつたので少しあせってしまった。乗り込む時とBRITISH AIRWAYSに乗り換える時、両方、手荷物でひっかゝってしまいあせった。

空港のDUTYFREE・SHOPは、私の欲しいような物がなく残念だった。

空が暗くなり夜になった。「クロコイルデンディ」を見た。おもしろかった。この辺で一日が終った事にしよう。



貴重な経験でした

大 屋 千 穂

「行ってきます。」と、多摩区役所を出発して成田へと向かうバスの中は、期待でいっぱいでした。飛行機に乗るのも初めてだったので緊張してしまいました。飛行機の中では、なかなか眠れずにトイレを見に行ったり、外を見たりして冒険心を燃やしていました。

ロンドンに着いたのは7時を過ぎた頃でした。私達は7時50分のスイスへ向かう便に乗らなくてはならないので皆、大急ぎでバスへと乗り込みました。感激したのはバスのセンスの良さ、広さと空港の広さです。時差ボケなど吹き飛ばしてしまいました。

チューリッヒに着くと、もう周囲は外国人だらけ…。ガラス越しに見たことのある顔が見えました。私は思わず、「あー。ミルカさんだよ」と、言っていました。なんだかついに来たのだという実感がその頃になってやってきたので、ミカルさんの顔を見て、ホッとしたのです。スイスは、それはもう言葉で言い表せないくらいに美しい国です。小学校時代に戦争中立国だと教わってからというもの、私は、スイスが大好きだったのです。ユングフラウヨッホはまたかく別でした。あの景色は今でも心に焼きついてはなれません。これぞスイス！ヨーロッパのトイレには大笑いしました。急いで入ったものの流し方がわからない。上についているポッチをまわしても流れません。

「あー。どうしよう。困ったなあ」と思いヒョイと引っぱってみたら、ジャーッと勢いよく流れて大笑いしてしまいました。

イタリア。スイスに比べたら汚い国だなと思ったけれど、料理は天下一品！ほったが落ちそうなくらいでした。イタリアは、治安が悪く少しぶっそうな国でしたが、あの墓地には驚ろかされました。まさに芸術国だと、思いました。一つ一つから哀しみがヒシヒシと伝わってくるようなそんな感じがしました。そして、とうとうユーゴスラビア//リエカへ。リエカの青年団のボランティア活動は素晴らしいものです。みんな素敵な人ばかりです。リエカに来て改めて、「ああ、参加して良かった」と

思い、胸がいっぱいになりました。でも、私は、英語がとても苦手です。なかなか通じなくて、18年間生きてきて何を学んだのだろう、と自己嫌悪に陥っていたりしました。けれど、そんな事で悔やんでも仕方ありません。へたなメチャクチャな英語で身振り手振りで、話しました。何となく相手も理解してくれて、友達も出来、うれしく思っています。

今回の研修旅行、交流の時間が少なかった事を残念に思っていますが、ガールスカウトであったからこそ体験できた事だと思います。最後の夏休み(来年は就職活動なので)を、とても有意義に過ごせて良かったと思います。この経験をこれからの私の人生に生かすのは、全て私自身です。頑張っていきたいと思っています。

心が通じた交流会

小川由布子

私にとって初めての海外旅行は、珍らしいものばかりでした。当然、飛行機も乗ったことがないので飛び立つ瞬間のなんとも言えないうれしさをまだ忘れられません。また、スイスに着くとそんな事は忘れて、ただただ外人さん(ここでは自分が外人だけれど…)を見て「わぁーすごい!!」と言っていました。スイスはあまり外国!!という感じがしなく、それほど実感はありませんでした。この時には他の団の人ともけっこう話が合い、一緒に買い物に行ったりしました。ここでおどろいた事が1つありました。それは店員さんが日本人だったのです。本当にびっくりしました。スイスに行って感じた事は、やはり空気がおいしい!!日本人が多い!!という事でした。その他に、私の大好きなハイジの世界に似たものを見られたのもうれしかったです。このようにしてスイスを出てイタリアへと行きました。

イタリアのミラノはさすが芸術の町!!だけあって口の開けっぱなしでした。やはりイタリアといえばスパゲティー!!というように本当においしく、ガイドさんにもおいしいスパゲティーの作り方を教えてもらい、とても楽しかったです。恐ろしかった事はスリ!!です。前の日本人客の人からスリにあった話を聞いて思わずバックを肩からさげ、それをかかえキョロキョロ回りを見回りながら歩いてしまいました。このようにしてイタリアを出て、私たちの目的地であるユーゴスラビアのリエカへと行きました。

ここに来ると日本人も少なく実感がわきました。青年同盟、赤十字、などと交

流をして、さまざまの思い出を作りました。リエカの人々は皆とてもやさしく、相手の事をよく思ってくれて本当にうれしかったです。初めは言葉に苦労しましたが、やはり言葉は通じなくても……。という奴で下手な英語ではあったけれど心が通じました。

最後のお別れパーティーでは、卒業式以来大泣きをしてしまいました。みんなと歌ったり、おしゃべりをしたり、おどったり、本当に楽しかったです。思わず涙が目からどんどん出てきて止まらなくなりました。それでもリエカの人々は一切涙を流さず、私に「YOKO, DON'T CRY, DON'T CRY」と言ってくれました。そんな言葉がなによりも心に残っています。今思い出してもその言葉が私に呼びかけそれ以来まだ泣いていません。泣かないのがいいというわけではないけれど、泣きたいのをこらえるのもいいなぁと思いました。リエカに来てつくづく来てよかった、と思いました。

今まで書いてきたように楽しい事が沢山ありました。つらい事もあったけれどそれもまた違った意味でのいい思い出になりました。とにかく今は私を行かせてくれた父、母、祖母、最後まで面倒をみてくれた会長さんをはじめリーダーの方々、星野さん、その他色々とお世話になった人たちに感謝しています。本当に楽しい、いい旅行でした。

私のリエカ海派研とは…

三浦珠美

私のリエカ海外派研とは、素晴らしい思い出が数々とできた、大切な、経験の一つです。

心細かった時、助けてくれた仲間の人達、色々教えてくれたリーダーの方々、それから、楽しさをいっぱいあたえてくれたリエカの人達、私はその事から、団結力、友情、交流などを学びました。リエカの人達は、言葉の通じない私達に、とてもやさしくしてくれました。私が野外劇場で民族舞踊を見ていた時、知らないおばさんが、アメ玉をくれました。かわりに消しゴムをあげたら、ソーイングセットもくれました。

リエカの町の人達は、良い人ばかりです。

この旅の中には、出会いが一番すばらしかったと思っています。

リエカのスカウト会の人、赤十字、青年団の人、色々な人と話しました。

言葉が通じなくてとても困った事もありました。けれど、手や動作で伝えられました。日本という、言葉の通じる国の友達だけではなく、他の国の言葉の通じない友達としゃべれたということは、生まれて初めての事でした。

海外へ行った事もみんなはじめての事でした。そして、外国の友達ができただけの事でも。

私の友達になった人は沢山いますが、その中でも、ブランカとは良く話しました。

ブランカは、買物をしている時、お金を出してくれたり、プレゼントしたり、とても仲良くしました。

お別れ会の時は、ワーンワーン泣いてしまって、はずかしかったけど、涙が止まらなかったの、ずーっと泣いていました。

バスに乗る時、顔がくしゃくしゃで、ブランカの顔がゆがんで見えました。

ブランカとは、ずっと仲良しでいたいのです。

ふつうの人では体験できない様な、す

ばらしい体験をさせてくれて本当に、感謝しています。

これからは、この体験を大きく生かして、がんばりたいと思います。

旅行の感想

小林理恵子

私はリエカという市の名前は初めて聞く名前、川崎市と姉妹都市の関係というのも、旅行へ行くまで知らなかったの、リエカに交流を深めに行く、というよりスイスへ行くという気の方が多かったです。

それに、家にアメリカからホームステイの人が来ていて、その思い出がまだ残っていて、旅行のしたくをしている時、なにかあまりのり気ではありませんでした。

しかし、やはり飛行機に乗る日は、海外旅行は初めてなのと、あまりみんなの事をよく知らなかったの、どうやっていけるかな、という不安と、どういところだろうというワクワクした気持ちでいっぱいでした。飛行機に乗る時なんか、「わぁこれが飛行機かぁ、さわっていい」などといいながら、さわっていきたりしました。でも、飛行機の中は動けず、座わって、御飯を食べているだけだったので意外と疲れました。

そして、スイスだけでなく、どこの国でも驚いたことは、食事の量が日本よりも多かった、ということです。私なんか、毎日のように残してばかりで、胃が大きくなりそうだな、と思いました。

スイスで思い出に残った事は、やはりホテルで誕生日を祝ってもらった事です。ただ、14才の誕生日が海外でできたか

らいいや、と思っていたのに、ケーキまで出してもらって、本当に一生の思い出に残る経験でした。

だんだんリエカに行くにつれて、以前から心配していた友達の事が、みんな仲良くなってきて、初めの研修の時がうそみたいに、仲良くなってくると、そちらの方でもおもしろくなってきました。

リエカでは、あまり観光地でないので日本人はめずらしがられました。そして交流ではいろいろな所の人たちと仲良くなりました。みんな優しい人たちばかりでミルカさんに教わった、クロワチア語と、ほんの少しの英語しか話す手段はなかったけど、それだけでも心がかよえた感じがしました。

でも、最後のパーティの時は私はいろいろな人と仲良くなっていたので、だれと遊ぶというか、いっしょにいていいかわかりませんでした。3つの団体はそれぞれバラバラで、私はどこへ行ったらいいのかまよってしまいました。それでも、最後はやはり涙ぐんできて、泣いてしまいました。今まで楽しくやった事が全部頭の中で回転しました。海にも入ったし、そこで思い切って飛び込みもしたし、みんなといっしょにファラやオーマリヤーナを歌ったり、普通の家族旅行ではできないことができ、本当にガールスカウトの一員でこれて、よかったと思いました。

リーダーの皆様、本当にありがとうございました。また、リエカに行きたいと思います。

楽しかった海外

西森 春江

8月の17日から30日にかけての海外研修旅行、とっても楽しかったです。自分にとって一生の思い出になりました。初めは、言葉が通じないから、いろいろ困ったけれど、だんだんとなれてきて話す事も楽しくなってきました。スイスでは、英語が通じるのでたくさん話しました。特に、ホテルのカギをあずける、フロントの人とはたくさんお話をしたし、手のおもちゃで遊んだりしてとっても楽しかったです。食事も、とってもおいしかったです。でも、びっくりしちゃいました。だってお肉ばかりで、ごはんが出たけど長細くて、パサパサしていてあまりおいしくなかったです。お米は、やっぱり日本でとれたお米がおいしいなと思いました。それと、一番おいしかったのは、スープやスパゲティー、まだまだたくさんあります。スイスの人みんな、毎日ああいう食事をしているのかと思うと、胃袋が大きいんだなあーと思います。

スイスをたってリエカへ。リエカでは、毎日が楽しい日でした。友達もたくさんでき本当に楽しかったです。赤十字の人達と海へ行った時、1回目は海で泳いでそれからショッピングを、ショッピングでは、私と奥村さんと小川さんと佐藤さんと行きました。お店に入って、何かわからない物があったので、ディーンさんに聞いてみました。日本でいう、針山に似ているものだよと、おしえてくれました。ディーンさんは、その針山みたいのを、私と奥村さんにプレゼントしてくれました。すごくうれしかったです。奥村さんと二人で顔を合わすたびに、にっこ

りと…………。

そして、絶対に忘れないのがさよならパーティ、あれは絶対に忘れません。初めは、ニコニコして遊んでいた私達も、だんだんと目に涙がたまってきて、「もう日本に帰りたくない、ずっと、ずっとリエカにいたい」と、何度も何度も心の中で思いました。

なんだか久しぶりに泣いたので、次の日は目がいたかったです。「本当に今まで、とっても楽しかったなあ」と思いました。

海外研修旅行の感想

長尾 晃子

私は今回の研修で本当にたくさんの、勉強をしたと思います。今までに、本ぐらいでしか知らなかった国、都市、名所などを自分でじかに見て来た、という事は本当に私にとっていい経験をしたなあと思っています。

私は前から海外へ行ってみたくないとずっと思っていたから、この旅行はすごく楽しみでした。ふつうの人は外国へ行く時には、すごく心配や不安などがあるものだと聞かされていました。だけど私にはその不安も何もありませんでした。ただ、どんな所へ行って、どんな人と友達になれるのかなあとはばかり思っていました。

あとイタリアでは、一度は乗ってみたいと思ったゴンドラに乗りました。とてもゆっくりでしたが、ベニスの街のすみずみまで見れたような気がします。ミラノのドゥオモ大聖堂では、とてもすばらしいステンドグラスを見ました。それは私の様なキリスト教の人にとっては本当にすばらしいものでした。

その様なすばらしいイタリアを後に、私達はいよいよ姉妹都市のリエカへ向かいました。そこではいろいろな人々、青年団の人やスカウト会、そして赤十字の人々が、私達を歓迎してくれました。はじめはよく言葉の聞きとれなかった私でしたが、だんだんなれてきたせいや少しづつ会話ができるようになりました。その会話もわかるようになるとすごくうれしかったです。

おみやげを渡したり、交換カードを交換したり、いろいろゲームもしたりしました。

最後の夜のお別れパーティーでは、みんなが来てくれて、とてもうれしかったです。みんな最後だということで、そのパーティーを盛り上げてくれてとても楽しかったです。

もう終りの時間という時に、みんな泣いてばかりいました。私もついもらい泣きをしてしまいました。何度も何度もお互いに、手紙を出すからね、と約束を向こうの人達としました。本当に悲しかったけど、楽しかったです。今でも思い出せます。

この旅行中は、言葉につまったり、マナーがよくわからなかったり大変なことばかりありました。でも私はこの経験を生かして、来年学校で行く海外研修にそなえたいと思います。今度は英語だけの国だから少しは会話も聞きとれるようになると思います。

私は、この研修に行っても良かったなと思います。いろいろ不自由なことがあったけど、充実した旅行でした。

またこういう機会があれば行ってみたいと思っています。

本当にいい旅行でした！

ヨーロッパへ行ってみて…

中村 古都

生まれて15年目で初めての海外旅行が、出来るなんて考えてもいませんでした。普段から遠出の少ない私にとって、海外なんて滅相もなく空想の世界だけでした。

ヨーロッパといっても、島国に住む日本人とは違い、国ごとでやはり、環境も食物も住居も違いました。もちろん、人の考え方もそうでした。代表的な例えがイタリアだと思います。あんなふうに鞆を抱えて歩かねばならない所もあれば、ユーゴスラビア・スイスのように穏やかな国もあり、緊張した日々もありました。

スイス・イタリア・ユーゴスラビアと、三ヶ国を短期間でまわるため、移動も多かったけれども、日本とは違う街の風景なども見れて良かったです。ただ残念なことは、もっとどのような生活方法をしているかを、見たかったことです。

私が感じた各国の印象を一言でいいますと、

スイス：穏やかで、人も景色も美しい所。
イタリア：少し怖かったけれども、食べ物も美味しく、いろいろな物が売っていて良かったです。

ユーゴスラビア：海も街もきれいで、時がゆっくり流れているようでした。

というのが、私の率直な感想です。一番気に入った国といっても、どの国も皆、良かったので、もう一度行きたい国は、誰が何と言おうと、ユーゴスラビア。理由は簡単、友達が沢山いるからです。多分、皆も同じ考えだと思います。でも、やはり世界中へ行ってみたい、欲張りな私です。

今回の旅行をして、改めて思った事は、

やはり、日本は豊かなのかなあ、という点です。今回行った国は、それほど貧しそうではなかったけれども、ちょっと裏手に入れば、まだまだ豊かではなさそうな所が多かったと思います。特にイタリアは貧富の差が大きいのではないかと思います。多分、もっと国が豊かになれば、人の物を盗む人が少なくなると思います。でも、それがイタリアなのかも知れませんが。

そして、もう一つ思ったことは、日本人の心より、皆もっと暖かい心をもっているという点です。特にユーゴスラビアでの“さよならパーティー”で、そう感じました。ヨーロッパや他の国では、あたりまえのことかもしれませんが、皆が私達の心を理解し、接してくれるのです。日本人はちょっと冷たい感じがする、という感じに思えました。街を歩きながら歌った時も、同じ考えでした。やはり、こういう点は見習わねばならない点だと思いつつ、帰国しました。

感想文

木内 明子

私たちは、ほんの2週間という短い時間の中で、何て貴重な体験をすることができたんだろう！私は、目をキラキラ輝かせてしまう。特にリエカでの5日間は、普通の高校生をしていたのでは、とても体験できなかったらと思う。この時ほど、ガールスカウトを続けてきてよかったと思ったことはないと言っても過言ではないだろう。でも、その最中、必ずしもいい思いばかりだったわけではない。かなりつらい思いもしたし、もどかしい気持ちもあった。自己嫌悪に陥ったこと

もあった。その時は本当にいやだった。でも、そんなことがあったからこそ、今になって、よかったと思えるのかも知れない。

私にとって、海外の人たちとの交流は、初めてのことだった。初めは、期待と不安でごっちゃまぜで、少し緊張してしまった。でも、みんなとても明るくて、気さくに話しかけてくれて、すぐに仲よくなれたのでよかった。でもそうすると、また新たな欲がわいてくるというか、つまりは、もっと理解し合いたいという気持ちだが、むくむくと湧いてきたわけだ。でも、そのとき私は、言葉の違いというGAPを強く感じた。それからずっと、お別れパーティーのときも、そのことは感じていた。言葉が通じなくなると、気持ちは通じるんだ、と信じようとしたけれど、やっぱりもどかしさがあった。お別れパーティーでも、みんながさみしさのあまり泣いているのを見て、うらやましい気持ちだった。また、会話をする努力から逃げ腰になっていた自分がとてもいやで、腹だたしかった。でも次の日の朝、友だちに見送られながらバスに乗るとき、さみしくて泣いてしまった。本当に来てよかったと思った。そして、このくやしかった思いを忘れずに、今度は、もっと会話の勉強をして、再び必ずリエカに来ようと思った。

他にも、考えることが多い旅だった。反省することもたくさんあった。それらのことを忘れずに、これからのスカウト生活や、普段の生活に生かしていきたいと思う。また、今回の研修旅行を第一歩として、国際交流の輪をもっと広げていきたいと思う。

海外研修旅行に行って

仁上 亜砂子

初めての海外旅行！うれしいけど又、不安だった。今でも、はっきり覚えています。スイス、イタリア、ユーゴスラビアやいろんな所へ行き、見て、楽しんで、とってもすばらしかった2週間。それも、あっというまにすぎてしまっていて残念です。私の一番の思い出はスイスでした。女の人が行きたい所は、ほとんどが“スイス”だと聞いた事もあって、どれくらいきれいで、いいのかなと思っていたから。着いた瞬間、本当に「その通りだな」と思った。ホテルの人達は、とても明るくて、ひょうきんで、印象的でした。山、空、家。本当に写真のような風景は、私の頭に今も、はっきり残っています。社会人になったら、又ぜひ行ってみたいです。

次の思い出は、もちろんリエカです。最初に会った人は市長さんで、レーガン大統領に似ている人でした。次の日は、赤十字に行って話しを聞いて感心してしまいました。奉仕活動みたいなもので、電話が来れば、すぐかけつけて行くななんて事、ふつうそんなに考えられなかったからです。それに、6年生ぐらいから、大人顔負けの活動をすると言う事も聞き、それにもびっくりしてしまいました。赤十字の人たちと仲よくなり、言葉はほとんど通じなかったけれど、表情や動作でお互いに分かり、うれしかった。その他、青年団の人たちとのパーティーは、とても楽しませてもらって、その喜びは忘れられません。もう、こんな事は、一生ないんじゃないかと思うぐらい……。きっと行くんだ、みんなに会いに。

次の日は、血液センターでした。3つ

の部屋しか見せてもらえず残念でした。昼食は、センターの人と一緒にでした。私の近くにいたおじさんは、とてもひょうきんな人で、一人ではしゃいでいたのには、笑ってしまいました。お別れパーティーの日。みんなゆかたを着て、踊って、食べて、遊んで、とっても楽しく、すばらしいお別れ会でした。バトロールごとの出し物も成功でした。帰る時、別れが悲しくて、みんなが泣いてしまいました。また、絶対リエカに、みんなに会いに行くんだ！

最後の場所は、水の都ベネチア。ゴンドラに乗って、古い家の中を通りぬけて行く。一度、乗って見たかったから、私は感激。でも、もっとすごかったのは、絵。所どころに教会があって、そこには神様の絵がたくさん。「わー!!」という驚きの連続でした。絵の大きさ、色、ものすごかった。

飛行機の中。日本の家、食べ物、なつかしさがこみ上げてきた。早く家へ帰って寝たい。なんだか、ホームシックにかかってしまった感じでした。2週間のヨーロッパの思い出さようなら。また、いつか行きたい。見てきた所を全部回ってみたい。行こう!! ぜったいに!!

感 想

藤 本 詠 子

成田から飛行機が飛び立ち、下を見ると海しかなくなって、やっと“これから日本をはなれて、外国に、今まで見たこともないところに行くんだ”って思いました。去年、アメリカ・メキシコに行って“楽しかった。でももう日本から離れるのはいやだな”って思っていた私です。

外国へ行くってことは、日本の良さを確認するためだってよくいいますが、実際体験してみて、その事に対し素直にうなずけました。やっぱり日本が一番だノと。

それでも私は、欧州派遣というこの“外国へ行く”機会にあたって、また、去年と同じように飛行機に乗っていました。日本の良さを再度確認するために行くのかな? って。それでも、時差ボケをなくすためにと、席で一生懸命、寝ようとしている自分が、信じられませんでした。

アンカレッジの空港に着き、“地球には、まだこんなに、何にもないところが残っているではないか!” と思い、小さな所にギュウギュウづめにされている日本には帰りたくない、ここでのびのびと生きてみたいと思いました。

スイスは、お話の中の家が、町並みが、本当にそのままひょっこり飛びだしてきてしまったような国でした。オルゴールと同じ家がそこにはあり、窓にはゼラニウムがキレイに飾られ、牛がモウーと鳴いている。山は、はてしなく緑が広がり、下の方に可愛い町が見えたところなんて、お話の中でしか味わったことなかった感動が、目の前にあり、ただ不思議でした。こういう所に住んでいる人って、いったいどんな人が住んでいるんだろうって思いました。

ドゥオモ(大聖堂)迫力がありません。中に入って、もっと感動してしまいました。そこにある物一つ一つが、永い歴史をもって、今、ここにこうして、私の目の前にあるという事が、なんだかとても不思議でした。日本とは違う歴史、でも、やっぱり同じ人間が作った歴史、そういったものを感じられるということは、今を生きている人々の一つの幸せだと思います。

気さくで陽気、ユーゴスラビアの人達は、本当にその言葉どおりの人達ばかりでした。その日初めて会った私達を、自然に仲間にとけこませてくれました。でも陽気なだけじゃないんです。自分達の手で、自分の国を、良くしていこう！とする強さがあるのです。

今回この研修旅行で行った所、もう一度行きたいです。もう一度、大人になって、またいろんな事を感じるために行きたいのです。でも今は、この自分の国を、もっと知りたいと思います。いかに自分が、この日本という国を知らないかそれが、今回の研修旅行で、一番感じた事でした。

海外研修旅行

小川かおり

初めての海外だった私は出発前からとてもウキウキしていて、飛行機に乗った時のあの「うわあー、とうとう乗ったんだあ。」という気持ちはとても快かったです。帰る時は別になんとも思わなくなってしまうんだけど、飛行機に乗るのはやっぱりワクワクする冒険心みたいのがあると思った。機内食はスチュワーデスさんのサービスよし、味もよし、の二重丸で英会話の練習もできて、スイスへ着きました。スイスは、今回私がいった所の一番気に入った所です。

スイスに着いて私は“空がすごく澄んでて空気がおいしい！”と思いました。思いっきり深呼吸して、思いっきり動けるベットの上で気分は極楽でした。本当に最高でした。料理はおいしかったけれど、どっちかっていうと愉快だった。珍しい味覚を味わって「これって、〇〇み

たい。」とか「わあ！〇〇〇が入ってるー。」とか、皆と楽しんだ。

そのスイスでの思い出にユングフラウ山脈への登山電車があります。ユングフラウの山頂は-5℃近くあって、自分でも驚く程寒くて、風も強かったので写真一枚とってすぐ下へおりてしまいました。あの視界全体が白く輝く山は一生忘れられないと思います。正直いってもうあと5分位いればよかったと後悔もしているのですが。下山したあとは牧場みたいな所らへんでショッピングをして楽しみました。そこでは角ぶえ(?)を吹くおじさんの姿も拝見できてしまいました。ここまで来るともう何もかもがうれしくて、「ねえ、見て…見て…」を友達に連発していたような気がします。

そしてもうひとつ、ユーゴスラビアでのことを書きます。ユーゴスラビアでは「ユーゴの人」いわく赤十字の皆さんやスカウト会の人達に会えて、今回の真の目的である交友関係ができて、皆それぞれ楽しくやれたと思っています。私自身もそう思いますが、それともうひとつ私にはここに来てから組内のまとまりができた！と実感したのです。別に仲が悪いとかそういうのではなくって、なんかちょっと組内でわかれているような気がしたのがなくなって、みんなで一緒になれた気がしたのです。みんな時間的にもしばられていて、大変だったと思いますが、それ故に組内の指揮をとってくれたパトロールリーダーに御苦労様でしたと言いたいです。そして星野さんやリーダーの方々にも。

今回の派遣では度々考えさせられた事があったけれど、それを考えて行動に移すことができたのは嬉しいです。全体的にも成功したし、又、ユーゴスラビアの

人と会いたいと思っています。とてもよい経験が出来たし、この素晴らしい事は絶対に忘れません。

感想文

三島麻里

S62. 8. 17 (月) 英国航空のアンカレッジ経由BA006便でロンドンへ、そして、612便で、スイスの東玄関口チューリッヒへ、そして続々と新鮮な国々へ回って行けるのです。私は、とてもすごいことだと思いました。

私が一番感動したのは、リエカのスカウト達は、何をやってもいっしょうけんめいで、何をやるにも体から当って行くような激しさと自分にいい聞かせる行動力があるのだな、と思いました。

自分にも行動力がありますが、私の時は「あとでやればできるから」などと、すぐ自分にあまいことばで実行できなくなります。だから、この旅行をきっかけとして、自分にあまえないようにわずかに少しでもいいから、自分で計画したものは、きちんと実行に移そうと思いました。

もう一つ感心したのは、日本と違って公園などがとてもきれいに手入れをしています。ゴミは全くありません。

リエカの人達は、自然をととても大切にしているんだということを知りました。だから、とても自然が多いんだなと思いました。

短い旅行でしたが、とても勉強になりました。そして、何よりも友達が多くできました。

海外研修を終えて

佐藤未央

とても良い経験をしたと思います。

出発する前は何かと不安だらけでした。いざ行ってみると、そんな不安もどこかへ行ってしまいました。どんな時でも自分から進んでその中にとけこんでいかなければいけない、そして何よりも大切な事、リーダーも毎日のように言っていた事でした。“いつでもスマイルを忘れない”。この2つをしっかりやっていたら、何も心配する事もないなって思ったんです。結果、私は思った以上に2週間の旅を楽しくすごすことができました。

スカウトの皆とは、旅行へ行くまでは何となく団で集まったりして仲良くなろうという意志があまりなかったと思います。けれど、2、3日と生活していくうちにとても仲良くなれました。いつもバスの中では歌ばかり歌ってましたが、皆で楽しく歌うことも仲良くなった理由の一つじゃないかと思います。

ユーゴスラビアの人達とは、思った以上に交流を深める事が出来ました。私としてはスカウト会の人達との交流が一番印象に残りました。あいにくの雨でしたが、室内の中でも十分に楽しむ事ができました。同じテーブルで一緒だった人達は手品を見せてくれたり、ちょっとした話でも通じるまで、わかりやすく教えてくれました。お昼はスカウト会の人達が作ってくださった昼食。とってもおいしかったです。

そしてお別れパーティー。とてもすてきな思い出が出来ました。この際、はずかしくてなんかいられないと必死でやった二人羽織。自分は夢中だったのでよくわかりませんが、むこうの人に楽しん

でもらえたようで、とてもうれしく思います。そして最後に、仲良くなった人達とお別れのあいさつをちゃんとできた事が何よりもうれしかったです。そこでニコリ笑えばいいのに、余計悲しくて、涙が後から後から出てきて仕方なかったです。それはそれで良かったのかもしれないけど、ニコリ笑ってお別れすれば良かったなど、後になって思いました。

とにかく、何事もなく元気で帰って来られて、本当に、リーダーや星野さん、ミルカさん、そしてパトロールリーダーと周りの友達に、お世話になったなあと思います。どうもありがとうございます。

これからも、この経験を生かし、ふだんの生活にもスマイルを忘れずに、スカウト活動に、はげもうと思います。

はじめて行った外国

佐藤由香里

今回の研修旅行は、私にとって初めての海外旅行だったので期待と不安でいっぱいでした。

8月17日、夕刻発の英国航空機に乗りこみました。実を言うと私は飛行機に乗るのは生まれて初めてなのです。だからすごく心配でした。ゆれないだろうか、落ちないだろうかと考えたりしてましたが、思ってたより快適でした。(エンジンの音がうるさかったけど)アンカレッジでは、エンジン故障というハプニングがあり2時間近くも遅れてしまいましたが、なんとかスイスのチューリッヒに到着することができました。

まちにまったスイス。前からあこがれてたスイスに来たのです。もううれしく

てうれしくてたまりませんでした。スイスの古い街並や景色がとても新鮮で「ああ、ここは日本じゃないんだあ!」と感動していました。

家の窓には花がいっぱいあってきれいでした。でも地下には核シェルターがあるんだなと思うとちょっとゾッともしようでした。私が一番うれしかったのは、やはり登山電車に乗ってユングフラウに行ったことです。目の前にそびえ立つアルプスの山々、万年雪、これが自分の目で見る事が出来たのです。山頂は真夏だというのに非常に寒く、雪があんなに深くつもっているものとは思っていませんでした。一面の銀世界に氷河、私はもうことばが出ませんでした。20日はガール・スカウトのワールドセンターのひとつ、アワ・シャレーに行きました。ガール・スカウトに入ってる人でもめったに行ける所ではないので、貴重な体験をしたんだなあと思います。アワ・シャレーの中を見学し、私もここに1日だけいいから泊りたかった。残念だったことは、2~3時間しかいられなかったし、何か記念に残ることをしたかった。そうじでもいいから……。でも思い出に残る日でした。

イタリアではミラノ、ベローナ、ベネチアを見学しましたが、建築物がとてもすばらしかった。日本は木造が普通なのに、昔のヨーロッパの人々はすごかったんだなあと感心するばかりでした。大聖堂やレオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」。すごかったあ!!

そして、私たちのメインである「姉妹都市交流」。2週間の中でいちばん楽しかった時でもありました。市長さんとお会いしたり、青年同盟、スカウト会、赤十字のお友達とあんなに仲良くなれると

は思ってもいませんでした。最初はどうかしよう、なんて話したらいいだろうと思ってたけどリエカのお友達の方から気軽に話してくれたりしたので、よかったです。とにかくこの5日間がとても、とても短く感じた、というより短かったと思います。1週間リエカにいても短いと思ったかもしれません。その分、別れるのが余計辛いかもしれないけど……。

ユーゴの青年達

清水夏子

ユーゴスラビアに対して鎖国的なイメージの大きかった私にとって、リエカの青年達が与えてくれた、新しいユーゴスラビアの印象というのは、ちょっとしたカルチャーショックから始まりました。カルチャーといっても、あまりにも広い意味がありますが、今回私は彼等青年達の無理のない考え方と、それに伴う行動力について、たくさん考えさせられました。

まず、活動している青年達の着眼点からは、彼等のセンスの良さを感じることが出来ました。「目のつけどころが違う」とまるで彼等はプロで私はアマのような気がしました。川崎市の若い青年達が集って、あそこまで徹底した活動計画を企て、それを実行するまで、どれだけの時間がかかるか、あるいは、どれだけ楽しく、また、強制的ではないプログラムに出来るかを考えると、何故か途方もなく絶望的に近いものを感じます。そうでなくても、あそこまでは出来ないという気がします。というのは、私達は彼等と比べてだいぶわがままなところがあったり、まだまだボランティアは常識という考え

方が一般的に通じないところが多いからです。そんな点では、本当に、彼等のことをうらやましく思います。学生達が集って、道路を造る工事をしたり、あるいは、環境汚染の状況を徹底して調べるなどという仕事を続けていき、その上、大人達に認められるような仕事をするというのは、想像しているより、何倍もの努力、そして協力が必要だと思います。そして、今彼等は、その仕事を楽しんでやっています。よほど、充実した日々を送っているのではないのでしょうか。

彼等に言わせると、青年の活動が盛んなのは、学生達には、一番時間があるからということでしたが、私にとっては、時間があるということが、即学生の活動に結びつくということが不思議で仕方ありません。私は、時間がある時、どんなつまらないことをして、時間がないふりをしているかを思うと、少し恥しく思います。

彼等の活動は、見たり、聞いたりだけでしたが、これだけ思い知らされることがあったのですから、もし参加したら、自分が何をやっていたのかと悲しくなりそうです。でも、もし機会があったら参加して充実した時間を過ごし、いろいろ勉強してみたいものです。

親愛なるリエカ

小松原美帆

「ここは外国なんだっ!!」やっと私が実感できたのは、ロンドンからの欧州線に乗った時だった。私達以外に日本人はいなく、他の乗客がめずらしそうに私達を眺めていたからだ。

そこからスイス→イタリア→ユーゴス

ラビア→イタリアとまわったのだが、やはり一番心に残ったのは、ユーゴスラビアだった。ユーゴスラビアでの、新しい人との触れ合い、そして何よりも、友達ができただけは、私にとって何物にも換え難い程、重要な事であった。もちろんスイスやイタリアも想像以上に素晴らしく、スイスでは、雄大で美しい大自然が、イタリアでは、古い芸術品や家並が歴史を感じさせた。もし、二度とイタリアやスイスを訪れる事がなかったとしても、決してこれらの事は忘れないと思う。しかし、それにもまして、リエカの人達の事は忘れない。例え二度と会えないとしても。私がずっと心配していた「言葉が通じなくても、友達になれるのか？」という不安は、友達が、実際にできて、ウソの様になくなった。言葉が例えあやふやでも、心は通じる。それが嬉しかった。仲よくなれば、言葉より、どこか違うところで相手の事が分かる。それが言葉が通じにくい分、よくわかった。

話は飛躍するが、私は前から人類が言語を用いる以前、又は人類以外の猿、犬、猫等の動物が、どのようにして相手の事を理解したり、争ったり、生活ができるのだろうか、と不思議だった。私達の生活にとって、言語とはあまりにも密着しすぎており、例えばたった1日でも言語なしに、自分の気持を伝えるのは困難だと思う。でも、ジェスチャーと心で単語を使って接してみて、私達が生きていく上で、言語とは単なる手段であり、他にもっと大切な事があるのだと気付いた。最も言語は手段であっても、相手を理解し、深める上で、重要なものだと思う。

リエカの人達との交流は、これまで遠い国であったユーゴスラビアを、身近にしてくれた。社会主義であるユーゴスラ

ビアと、民主主義である日本だけでも、絶対に戦ってはならない、と改めて思った。今まで、本や映画から「戦争はいやだ」と何度も思っていたが、もし、リエカの人達と争う事になったら、と思うと恐ろしくなる。考えすぎかもしれないが、今また、日米で軍備がすすめられていたり、米ソの和解がうまくいってなく、核戦争の危機が刻々と近づいていると、不安に思わずにはいられない。

私は友達と二年後に、またユーゴスラビアを訪れる約束をした。それまでにもっと沢山の事を知り、今回よりも、もっと沢山の事を彼女らと語りあいたい。

ユーゴスラビアでの思い出

浜野珠美

初めは心配だったこの旅行も研修を重ねていくうちにパトロールメンバーの人たちとしゃべるようになり、やさしくておもしろい人たちだということがわかりました。出発してからもバスの中では、ソワソワしていて、飛行機の中ではほとんど眠ませんでした。

けれど着いてからは、自由行動もたっぷりあったせいとおちつけました。スイスからユーゴスラビアへ行くまでは、あまり自由行動がなかったのが残念でした。

ユーゴスラビアに着いてからは、初めて会う人も、もう友達ノという感じでもとてもおもしろい人たちばかりでした。いきなりイタズラをされた時もありました。それに、さよならパーティーの時「おどって下さい」といわれて、「はい」といったものの、その人の足を何回もふんでしまった時もありました。迷惑もいろいろかけたけれどとても楽しい旅行でした。

けれど最後に大泣きをした事も、一つの思い出になりました。

今回の旅行で体験したことは、私にとって初めてのことでとまどっていた時もあったけど、リーダーやほかのスカウトの人たちのおかげで楽しく過ごすことができました。

本当にありがとうございました。

リエカに行って

奥村 祐子

私はこの旅行に参加したものの実は不安だらけでした。海外に行くのは初めてだし、リエカだってどんなところで、どんな人たちがいて、どんな生活をしているのかさっぱり分かりませんでした。でもそんなことも事前の研修でのミルカさんの話などでほんの少し分かりました。ほんの少しでも分かると、今度は早く行ってみたいとしかたがありませんでした。出発の17日までの一日一日がとってもおそく感じられました。スーツケースの中には忘れもの一つなく準備ができてなのに、カレンダーを見ると17日までは日があります。あの期待感と緊張感の入り混じった複雑な気持ちは、今でも忘れられません。

いざ出発になってみると集合場所に遅れるんじゃないかと、重大な忘れものがあるんじゃないかと、もうこれでもかというほど心配事が頭をよぎりました。私は心配性だったということに気が付きました。日本をたちスイス、イタリアと観光を済ませ、私たちの最大の目的のリエカへ入った。リエカはなんのへんてつもない普通の町だと思っていたが、青年同盟の人々、スカウト会、赤十字の人達と

毎日のように会って仲良くなるにつれて、本当のリエカの町の風景が見えてきたような感じがしました。きれいな海やすてきな建物、おいしい料理からもリエカの人々の心が感じられました。あの5日間とはとっても楽しかったです。日本にはない青年同盟の仕組みはとっても勉強になりました。私達よりも、もっと上級の訓練を受けているスカウト会の人々との交流も、ガールスカウトとして勉強になりました。赤十字の人も若いうちから隊員になり活動していて、とてもすばらしいことだと思いました。これを見ていると日本の若者も、もっと活躍をしないといけないと思いました。リエカの若者たちを日本も見習って、これからは私もガールスカウト活動を主として、リエカの人たちに負けないようがんばって活動していきたいです。

今回の旅行で学んだことは、数えきれないほどあります。多くの友達もできました。こんな貴重な体験は一生に一度あるかないかです。今回の旅行で学んだことは、私の一生の宝です。その学んだことを大いに生かして、何事にもがんばってやっていきたいです。とてもよい旅行ができて本当によかったです。

海外研修の感想

倉田 麻子

8月17日、多摩市民館に集合したとき、「ああ、とうとう出発なんだなあ」と思いました。成田空港から、飛行機に乗ったときは、つい落しないかと、旅行中に、突然病気なんかにならないかと、いろいろ心配していたけど、無事に最初の目的地、スイスに着いたときは、

すごうれしかったです。

とにかく最初の日、一番つかれたのではないかという気がしました。ホテルに着くまで、ほとんどバスだったので、よくわからないけど、スイスの印象は、とても景色がよく、かわいらしい家がたくさんで、「本当に来れてよかったなあ」と思いました。

行く前は、向こうの食事があわなかったらどうしようなどと思ったけど、おいしくてあまり食べ残しませんでした。ふだんより、たくさん食べたような気がしました。

この二週間の旅行の中で、一番印象に残ったところは、何といてもリエカです。

いろいろな人と話ができたり、友達になったりで、楽しかったです。

お別れパーティーのときは、少し悲しかったけど、とてもいい思い出になりました。

この旅行では、リエカの人たちだけでなく、いっしょに行った人たちとも仲良くなれて、とてもよかったです。

将来、またヨーロッパに行くことがあったら、1つの国に行って、その国のいろいろな面を見てきたいです。

最高に楽しい旅行ができて本当によかったですと思います。そして、この旅行のために、お金を出してくれた両親に感謝したいと思います。

思い出のユーゴスラビア

山本智子

素晴らしかったユーゴスラビア、世界で日本の次に親しい国となったユーゴスラビア、親友達の住んでいるユーゴスラ

ビア、私は、ユーゴスラビアが大好きです。そして私は、リエカが大好きです。

I Love Rijeka!

私の親友を2人紹介します。1人はスネジャーナといいます。最初に青年同盟の代表としてやって来た。私と同じ17才の女の子です。彼女は大人で、やさしくて、エキゾチックな美しい顔立ちです。お化粧も上手で、BFもいます。5日間、毎日一緒に行動し、とても親しくなることが出来ました。

もう1人は、タマラという、14才の女の子です。とても年下には思えないほど色っぽくて、ブロンドが似合う、素敵な子です。でもやはり14才らしい、かわいいところも持っていました。彼女はスカウト会の少女で、バスの中で自己紹介をした時に、親しくなれました。英語が上手で、話すのがとても楽しかったです。彼女達2人の他にも、たくさんの友達が出来ました。みんなそれぞれ個性的で、心の美しい人々でした。

私は出発前、「どーせ私なんか、友達なんてできない」などと思っていました。しかし、リエカの人々の暖かい笑顔は、彼らが自分達に好感を持っていてくれるのが、ハッキリと伝わってきました。すごうれしかったです。

本当に私は幸せです。まだ17才なのに、海外に友達(それも親友まで)を作ることができるなんて、普通の17才の女の子では考えられないことです。ガールスカウトに入っていて本当に良かった。母やリーダーが推めて下さらなかつたら、17才の夏の思い出は無かつたでしょう。もしあつたとしても、これ以上素晴らしい経験はできなかつたと思います。

2年後、大学に入って、アルバイトをしてお金を貯めて、英語をもっともっと

勉強して、絶対にまた、ユーゴスラビアに行きます。もうこの時は17才ではないけれども、若さと、人を愛する心は、ずっと持ち続けていたいと思います。それが彼女達との約束をはたすことになり、自分自身との約束を守ることになるでしょう。

体験を生かして

副団長 小林美年子

日本は豊かな国になったとしみじみ思った。建造物は新しく近代的であるし車も新しい。地方に行けば箱庭的であるが美しい山河があり、なによりも肥沃な土壌がある。それに比べて欧州やユーゴは全てが古かった。初秋を感じさせる緑色の草原や、ばさついた土壌が気になった。

しかし、その古さの中に宗教と結びついた芸術の美しさを見ることができ、守ってきた欧州人の美意識を感じるのである。これは長い歴史を通して育てられたもので民族の血となっているのであろうが、欧州はどこを見ても絵になると言われる所為でもあろう。

中世のスイスやイタリアが都市国家であった名残りなどが現存する。この度の旅行で目にしたものは数多いが、スカウト達がその中から世界の歴史の歩みに少しでも興味を持ってくれたらよいと思う。ステンドグラスを通してギリシャ神話を読むのもよいし、教会の塔を通して宗教というものを理解してみようと思ってくれたら幸いだと思う。

私達の第一の目的であったリエカの青少年との交流は、誰もが感じた通り誠に感動的なものであった。若者達の持つ魅

力をみた思いで、大人の出る幕でなかった。別れに当って涙、涙の組が何組か出来たが、一期一会とは真にこのことだと思ったのである。

英語が余り通じないリエカの人との交流で、スカウト達はどんなにか言葉を欲しいと思ったにちがいない。しかし言葉が不自由であったからこそ人生に於て最上の賜り物を貰ったと思う。つまり身体の語ることをばを読む……ということ少女達はしたはずである。異国の友の目で想いを読み、背中が語ることをばを必死で読んできたと思う。言葉は人と人とを結ぶ重要な通路であるが、“言葉の前に心がある”ということはこの体験を機に意識してほしい。親しい間の人とは言葉に困らないから、つい言葉が先になるが、常に相手の身体が語る言葉を読めるような人になってもらいたいと願うのである。国際交流に於ても大切なことだし、日常生活でも最も大切なことである。

リエカの友と友情をつないでいくためには“書き言葉”が必要である。リエカにクロアチア語があってもユーゴ語がないのは、ユーゴに統一された書き言葉がないからである。スイスにスイス語という国語がないのも同様である。幸いに日本には日本語がある。外国語を身につけると共に、豊かな日本語の持ち主になりたいと思った。

今回の旅行で自分の目で見ることのすばらしさを味わった。同じ道の上に国境を持つ欧州と四面海の日本、鉱石に恵まれた欧州と草木豊かな日本。気候・風土・環境から育った民族性をお互いに守りながら理解し合うことの努力がこれからの国際社会では大事なことであるが、そのためにもスカウト達を海外に出してやりたいと思っている。

ヨーロッパ研修旅行

佐々木れい子

憧れのヨーロッパ海外研修、観光地としての話と実際に自分で見聞したのとは、やはり少し違いがある様に思いました。

まずスイスでは、絵より美しい景色、絵の中にすっぽり入り物語の主人公になった様です。雪に覆われた山々、湖、窓辺に花いっぱいの家々、それは見事な景色でした。4,000 m級の山ユングフラウヨッホに登山電車で行く途中には、牧草刈、牛を追う少年の姿、のどかな風景です。その反面、中立国故に敵が攻めて来た時等、自分達で国を守る、誰の助けも借りないという事で、防備があらゆる所にしてあるそうです。身近な事では、家を建てる時必ず地下を作り、食糧を保存したり、人が避難できるよう義務づけられているそうです。

ルツェルン、インターラーケン、ユングフラウヨッホ、グリンデルワルドを後にバスはアデルボーデンのワールドセンターへ。バスを降り、なだらかな坂道を登りつめた所に木造3階建のアワシャレーが目前に現れました。感激でした。きびしい自然の中に、たくましく建っているといった感じでした。ワールドセンターがここに来る迄のお話を伺い各部屋を案内され、どの部屋も素敵に工夫され可愛いお部屋ばかりでした。雪の中のアワシャレーを想像し、御苦労も多いでしょうが羨ましく思いました。お別れにアワシャレーの歌を私達は日本語で、スイスの方は英語で歌って下さいました。皆、名残りを惜しみながらワールドセンターを後にコモに1泊、イタリアに入りました。

ミラノ、ベローナでは、13、14世

紀頃の名所、旧跡を案内され、文化・美術・建造物を見、説明を聞いていますと、日本との違いをつくづく感じました。古い建物の街並みを歩きながら、ここから新しいファッションが生まれるのかと思いつきショッピングを楽しみました(お店は殆ど夏休みでしたが)。ベローナの町では、「ロミオとジュリエット」の住んでいた家が、現在まだ人が住み使われているのにはびっくりしました。とても落ち着いたきれいな町でした。

国境を越えいよいよ姉妹都市リエカ。リエカではオパティアのホテルを拠点に行動しました。青年社会同盟、赤十字社、スカウト会という具合に毎日各団体を訪問、大歓迎を受け交流をしていたので5日間はあっという間でした。共産国という事で一寸暗いイメージを持っていたのですが、とても明るい陽気な人々でした。市場、マーケット等市内を少し歩いたのですが、それでも生活の一部を見たような気がしました。スカウトをはじめ私達も言葉は通じなくても、心は通うという事を証明したのではないのでしょうか。

最後のお別れパーティ、それはそれは素晴らしいものでした。日本古来の遊びの紹介、会場全員の大合唱、目を閉じれば昨日の事の様に浮んで来ます。風土、風俗、本当に色々勉強になりました。実ある素晴らしい研修旅行でした。

欧州交流派遣に参加して

畑 千 春

随分と迷った今回の研修旅行でした。しかし、昨年あのワールドセンターとの出会いの感激をもう一度と思う心が参加する決心となりました。

7月から夏休みにかけての過密スケジュールの中、健康に自信がなくメンバーの方々に、ご迷惑をかけるのではないかと不安でいっぱいでした。

スカウト達と共に研修を重ね、いよいよ出発の日がやって来ました。成田新東京国際空港の耳なれたアナウンスをあとに、期待と不安を胸に予定より少し遅れて飛行機は飛びたった。

長い飛行機の旅もひとまず終りやっとなスイスのチューリッヒに無事着陸、雨にけむっていた。バスで市内を走りルツェルンで昼食をとる。日本のあの蒸し暑さからは考えられない、とても涼ぎよい気候であった。街の建物という建物全部とっていいくらい色とりどりの花がベランダいっぱい飾られ、その美しさに喚声の連続だった。

旅行第一日目のホテルのあるインターakenもまた、小さな町だけれど私達を飽きさせない色々な店が並んでいた。

ユングフラウヨッホもすばらしいけれど、3,454mという高い所まで登山電車が登って行くこと、そしてその車窓からの景色の美しさ、スカウト達が新婚旅行には是非行ってみたい所だといったことがうなずける思いがした。私にとってうらやましい話しである。グリーンデルヴァルトのすばらしい街並にうっとりしていると、いきなり関西弁が聞こえてきたのはがっかりした。

今日はいよいよ私達のワールドセンター・アワシャレーに行く日である。ガイドの安藤さんよりスイスの歌やカウベルをつけた牛のことチーズのこと、また車窓から見える美しい山小屋風の家は、木材を70%使用し、地下にはシェルターを作らなければいけないと決められていると聞き、あの美しいベランダの花と思

い合せることが出来ない思いがした。

アデルボーデンへの道は、山間の細い道、バスを降りて標識を見つけた時の感激、それにましてシャレーが見えた時の皆の笑顔が今も思い出されます。アワシャレーソングにも歌っている様に広い屋根、暖かい我が家という感じで、よく磨きかけられた木肌のぬくもりと先輩達が苦勞して建てて下さった思いが、伝わってくる様です。活動の様子を見ることは出来なかったけれど、私の心の中に大切な宝物を一つ頂いたと思う気持でシャレーをあとにした。

サンゴダル峠の変化に富んだ山間の峠、万年雪の雪解け水が作った無数の滝、日本とスケールが違う思いがした。

イタリア第二の都市というだけあってミラノは落ち着いた町で、大聖堂の建造物のすばらしさにましてステンドグラスのあの色と図柄がとても印象に残っています。歴史的建造物が多く残された中に近代的な街並が溶け込んで、過去と現在が同居する街でもっと時間の余裕がほしい思いがしました。

ベローナの町を見学してユーゴスラビアのアラバホテルに着いたのは、午後6時45分、この研修旅行の第一の目的でもあるリエカ市でのプログラムが始まります。リエカ市長はじめ姉妹都市委員会の方、赤十字社、青年同盟、スカウト会の方々との交流はスカウト達にとっても、いつまでも心に残るたくさんの思い出、そして親善使節として立派にお役をはたすことが出来たことと思います。

最後の観光地、水の都ベニスも忘れがたい思い出の一つです。

この研修旅行に参加するチャンスを与えて下さった多くの方々に感謝すると共に、数々の出会いで得たことをこれから

の活動の糧としたいと思っています。

欧州交流派遣に参加して

清水 嬉子

8月17日、成田を発って、スイス、イタリア、ユーゴスラビアの研修旅行で感じたこと、期待したアワシャレーの見学が、意外にあっけなく内心がっかりしたのですが、スイスの美しい山々、アルプスの少女ハイジそのままの山小屋と牛追いの少年、思わずベーターと呼びたくなるような、なつかしさ、各地で見られた古い建物（4～5世紀以上も前の）が今でも使用されていること、又、ドウォモのように何世紀にも亘る人間の共同作業で完成した偉大な作品を実際に、見たり、ふれたりした感激と共に、日本での生活に比して、万事のんびりとしたテンポ、現在の経済大国日本は成るべくして成ったという感慨と共に、ユーゴでの数日の交流が心に残ります。

青年同盟のテント生活での奉仕活動、スカウト会の若者のバイタリティ、赤十字会の若いメンバーの活動、救急活動はもちろんのと、毎日いろいろな活動をしているのが、15才から16才位の少年少女で、その理由が、学生である故、時間的に余裕があるから、ボランティア活動に一番時間がさけるからだと言う。我が国の豊かな社会に育った、同年代の若者の多くが、アイドル歌手に徹夜で行列したり、キャラクター商品に熱中し、社会的に何の責任も持たされていないことを思い合せ、ユーゴスラビアの子供達の活動の根底になっている“国を愛する心”を作る教育の仕方に感銘を受けました。

12才位から奉仕活動のため、親もと

を離れテントで共同生活をしていた少年の生き生きとした表情のすばらしさと共に、赤十字社の少女が、自分達の活動の説明の後、“貴女達は今まで、社会のためにどんなことをしましたか”と質問されたことが心に残りました。

時間がなくて、スカウトがその質問に答えを言わないうちに、話し合いが終わってしまいましたが、今の日本の学生の中に、何人この質問に自信を持って答えられるか心もとない感じがします。せめて、スカウト達に、この問いに、胸を張って答えられる様な活動が出来る若者に育ててほしいと心から願い、又、その様な指導が出来るリーダーとなるべく努力をしなければと感じました。

欧州交流派遣を終えて

大倉田 鶴子

昨年に引き続き、二度目の川崎連絡会海外研修が8月17日から30日まで実施された。

今年は姉妹都市リエカ市の青少年との交流とワールドセンター・アワシャレーの見学がその主な目的だった。

昨年アメリカ・メキシコ研修に参加して沢山の貴重な経験を味わった喜びは決して忘れることが出来ず、今回も大きな期待を寄せて参加させていただくことにした。

特にユーゴスラビアに対しては、本屋さんにもガイドブック類は殆ど見当たらず、私にとっては未知の国への旅だちという気持ちだった。政治・経済・文化・学校教育等々、あらゆるものが興味の対象だった。そして、5日間の滞在中、青年同盟、スカウト会、赤十字青年部の人

々などと交流を持つうちに、それらの答が少しずつ見えて来た。その中で特に印象深かったのは、国を愛し、人を愛する人を育てる政治的・人間的教育がしっかりとなされているということである。十二、三才頃から国への奉仕をごく当たり前として励む姿に、私たち日本の若者の自己中心的な姿が重なり、ガールスカウト活動でさえも、人への奉仕よりも自己開発の部分が大きいように思えたりした。もう一度原点から全てを見直す良いきっかけとなった。また、第二外国語に英語、独語、伊語などを選択している青年たちとの交流は、時として言葉が全く通じないという場面もしばしばあったが、歌やゲーム、或いは身ぶり、手ぶりで心はお互いに通じ合っているようだった。何よりも感激的だったのは最後のさよならパーティーだ。みんなで歌い、踊り、涙を流し……たくさんの人々との暖かいふれ合いは全ての人宝物だ。次の世代をになう若者たちの交流が、もっともっと育て地球上がみんな平和であって欲しいと心から感じた。

他に、スイス訪問ではルツェルンの街並、ユングフラウヨッホの雄大な景色、アワシャレーの暖かい雰囲気、千変万化のサンゴダル峠……どれも素晴らしいものだった。が私たちはスイスが永世中立国であるが故に、国民皆兵制であることや自分で自分を守る為に、シェルターを持つ家に住んでいることを忘れてはならない。

イタリアでは中世の建築に、美術に、そしてショッピングに心から楽しんだ。何よりも治安の悪いイタリアで安全に過ごせたこと、全員が健康であったことは話を一層楽しいものにさせてくれた。

関係の多くの方々のお陰で有益な研修

が出来ましたことを厚くお礼申し上げます。

旅行に参加して

芦垣和代

旅行に出かけると必ず新しいものを発見する事が出来ると思います。ガールスカウトの旅行は常にメリットが多い旅行になるのは、ガールスカウトが世界的にも重視されている事。皆一人一人が明るく一生懸命人々に接するからであると思います。

リエカ市という所は、共産圏であり何か私の頭の中では考えがおよばない、ミステリアスな国でした。しかし私の考えとは反対に、人々は明るく温かく私達を見守って下さいました。自分達の国を市を教えて下さる為に、たくさんの愛情をたった5日間という滞在日数の中で与えて下さいました。リエカに行けた事は、とても大きな出来事だと感じています。普通の女の子は大きなアメリカという国に憧れます。自由で解放的なアメリカに。私もその一人でした。何だか楽しい事が夢がたくさんありそうな国だと思っていた事があります。リエカを訪ずれてとても大きな発見をしました。具体的にこれです！とは書く事が出来ない程の感動を。ミステリアスな国がとてもやさしく温かい国に思えます。

リーダーでありながら私は、たくさんの友達を作りました。そして再会も出来ました(2年程前の夏に八ヶ岳で出会ったアニタ、イタナ、ヤスナ、靖くんです。彼女達は国際青年年の時に日本を訪れました。時間が経っていても彼女らが私達を迎えてくれた時は最高に幸せな気持ち

でした)。日々がたつにつれ、もっと話をしたい、友達になりたいと思ったのは、スカウトと同じだったと思います。

最後のお別れパーティーの時の涙は、何事にも変えられない真実の姿だと思えます。楽しかった！と一言では表わす事の出来ない気持ちが涙と笑顔の中にあったのではないのでしょうか。言葉より何より正面から彼女、彼らと接する事が、今まで一番大切にしながら生きてきた“思いやる心”があったからだと思っています。Damirという友達が最後に、「又あなたと逢えると信じています」と言ってくれた事が今でも心に残っています。チャンスは何度も訪れると思いますが、その時に感じる心は、その時の青春の一ページで、次の時は同じではないと思いません。大切に育てたい友情ならば、もっともっと大切に友情を育てなくては。自分自身で人生を開いて行くのだから、笑顔で又逢いたいです。ガールスカウトの一員であり、女性であり、人間なのですから、どんな国のどんな人々に対しても幸せでありたいと願っています。今回の旅行で得たものすべてを大切に、ステキにやさしく生活して行きたいと思えます。いつかチャンスを得たら無駄にしないでリエカへ行く！と言ってみたい。

最後に団長、副団長及びリーダーの方々、御苦勞様でした。そして、リエカ市の方々にも深く感謝致します。村田さんありがとうございました。ミルカさん HVARA!

いつか皆で又 ZDRAVO! って言いましょうネ。

ステキな旅行に乾杯!!

2週間の研修旅行を終えて

西 恵理子

私の感じた3ヶ国を各国ひとことずつまとめてみると。スイス、どこを見ても美しく、絵になる国。イタリア、建て物・墓地・教会すべてがうわさ通りの芸術の国。ユーゴスラビア、人とのふれあい、そして仲間作りが上手にできる人間性に優れた国、ということです。

今すぐで行ったことがない、この3ヶ国を通して、私は今までに感じなかった2つのことを感じました。

その1、各国で働いている多くの日本人、特に今回ふれあいの多かったガイドさん達を見て私は、今、自分が住んでいる場所は川崎であるが、この日本の川崎という場所にとどまらずに、日本のあちこち、そして、世界のどこかにも、自分が生活し、生きていける場所が多数あるのではないかとつくづく感じた。ですから、今の自分の仕事・趣味をもう少し広げ、日本のことをよく理解したうえで、海外にできた友人を通して、日本から少しづつ外へ目を向けていきたいと思いました。

その2、ステキな友人が増えたこと。リエカでは、私の全く理解できないような英語を一生懸命に聞いて話しをしてくれた人々、そして今回いっしょに研修旅行に参加した、シニア・レンジャースカウト達にめぐり会えたことが私には大変うれしかったことです。十人十色というように、いろいろなスカウト達と話しをし、行動ができたことをとってもうれしく感じると共に、ステキな2週間を過ごせたことに感謝します。これからも皆さんよろしく。フォアラー!

スイス・リエカ 海外研修を終えて

佐藤千鶴子

5月からの事前研修も終り、出発の日がせまって来るにしたがって、自分の気持ちに不安が有りました。生まれて初めての海外です。また一番いそがしい夏休み、2週間仕事を休むことなど、まわりの人たちに迷惑をかけるのではなどでした。

8月17日、出発の日が来ました。参加者全員の健康と安全を願いながら機上の人となりました。飛行機が離陸した瞬間、スカウトの歓声と拍手に、思わず自分もいっしょに拍手をしていました。

いよいよスイスです。上空から見た、チューリップはとてもきれいです。緑のジュータンの上に積木をならべたように家がありました。

空航よりバスでルツェルン、インターラーケンへ。バスの窓から見る景色、花でかざってある家は思っていたよりとてもすばらしいものでした。翌日からのスイスの観光では、緑の草原から雪と氷の世界へ急に展開して行く車窓からのながめ、標高3,454mの頂上へ。アイガー、メンヒ、ユングフラウ、3山のすばらしさは言葉では言いあらわすことが出来ないほどでした。

いよいよ8月20日。アデルボーデンのワールドセンターを訪問する日です。ガールスカウトであれば、だれでも一度は来たいと思うアワシャレーです。

スタッフの方が暖かく迎えて下さいました。研修の為の各部屋、きれいにみがかかれた床、建築には釘が一本も使われていないと言うことでした。みんなで歌ったアワシャレーソング、喜びで胸があつくなりました。

スイスを後に歴史と文化の国イタリアから、目的地の一つである、川崎市の姉妹都市につきました。リエカ市での青少年との交流では、大きな成果を上げることが出来ました。

リエカ市当局の皆様、また伊藤三郎川崎市長始め市当局の多くの方々のご指導、ご協力が有って実現できましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

星野様、ミルカ様、長い旅行たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

海外研修に参加して

辰己恵津子

昨年、第一回の海外研修報告会に出席して来年は是非参加したいと思っていました。

そして、今年はその願いが叶い、参加させていただくことができました。

ユニットリーダーとなり、スカウト達を十分楽しませることができただろうかと不安がありましたが、リーダー方の御配慮や励ましで、楽しい研修ができたことは、何よりの喜びでした。

出発までの事前研修では、初めて耳にするクロアチア語を学んだり、踊り、歌を練習したり、日本をもう一度見直すなど、スカウトと共に私にとっても充実した研修でした。

その研修を終えて、壮行会では多勢の方が、私たちのために御協力してくださったことに感謝し、このチャンスを有意義なものにすることを心におき出発しました。

成田を出発、16時間の飛行機の旅は

疲れましたが、スイスに着いたとたんその疲れも飛んでしまいました。

緑と空の青さに、ところどころ咲いている花が、調和しているスイスの街は、すばらしいものでした。本やテレビで見るアルプス、登山電車で登り、一面の白銀の世界、雄大で自然のすばらしさは、言葉では表現できないほどの感動でした。

人は、環境によって左右されるといわれますが、まさにその通り、こんな街で暮らすことができたなら、気持ちも大きくなるのではないかと、日本もそんな国にしたいなど、景色のすばらしさにただ見とれるばかりでした。

イタリアでは、14世紀に建築されたミラノのドゥモ、スフォルツェスン城、サンタマリア教会、レオナルド・ダ・ビンチの最後の晩餐など、ゴシック様式、ロマネスク様式の建物は、歴史の深さを物語っていました。

そして、文化の発達、偉大さをあらためて痛感しました。

リエカでは、多勢の人が暖かく迎えてくださいました。日本と違って、生活はけして豊かではありません。しかし、どれもが国を愛し、国のために青年たちが進んで役立とうと働いている姿は、私たちに考えさせられた部分が多かったです。豊かで、それに甘えている生活をしている私たちに忘れかけている人の心を教えてくれた気がします。

5日間の短かい滞在で、人の暖かさをこんなに感じた日々はありません。これからも、リエカの人たちと友好を深めることができたらと思います。

他の国へ行き、人と出会い、心に残るものが多かったこの研修でした。楽しい思い出を作るために御協力して下さった、ミルカさん、添乗員の星野さん、役所の

方々に感謝いたします。ありがとうございました。

今後のガールの活動に生かし、伝えたいと思っています。

20 数年ぶりのヨーロッパ

山本光子

“欧州海外研修者募集”訪問先、ユーゴスラビア(リエカ)スイス(ユーグフラウヨッホ)イタリア(ミラノ、ヴェニス)の案内を見た時、20 数年前のことが走馬燈のように思い出された。ユーゴスラビアは別だが、若かりし頃、2ヶ月程、ヨーロッパを貧乏旅行した経験がある。登山電車がアイガー、メンヒ、ユーグフラウヨッホをながめながら草原の中をコトコト走る。まるで絵のようだ。そして電車を降りてペランダに立つと、眼の前にはフィッシャー氷河が広がっている。暗い穴の中から出てきたせいか光線が眼にしみる。雄大さ、美しさが心の奥底まで深い感銘を与えてくれたものだ。

イタリアのヴェニスでは写真を撮ってくれとせがまれ、写してあげた後、チップをくれと手を出され、困りはて、お金のかわりに折紙で鶴を折ってあげたあの目のクリクリした少年、今は立派な青年になっていることだろう。又、居酒屋でアコードオンを弾きながら、朗々とサンタ・ルチアを歌っていた学士さん。俳優のロッサノブラッツィに似てるなど、歌より顔に見とれていた私。いいおじいちゃんになっているのかしら……。と私の頭の中はいっぱいになった。是が非でも参加させていただこう。受験生の娘に留守番よろしくと頼み、とんでるお母さんねとの近所の口も聞き流し、お母さんも

先が短かい人だから行かせてやろうとの主人のお言葉に手を合わせて拝みつつ、参加OKとなりました。

8月17日、成田発。私は期待と困惑を胸にいだきながら日本を後にした。

8月18・19日、インターラーケン泊。

8月20日、コモ泊。

8月21・22日、ミラノ泊。

8月23～27日、リエカ泊。

8月28日、ヴェニス泊。

8月30日、成田着。暑い暑い、2週間ぶりの日本、何となく心が落ち着く。旅は終わった。

9月3日の私の日記より。

時差ぼけのせいはまだ昼と夜が逆様の感じ。只今、午前2時、眠れない。でもいいや。ユーグフラウもヴェニスも20数年前と同じあたかさで私を迎えてくれたもの。昔のアルバムをとり出して今日出来てきた写真と比べてみる。おもしろいことに、ほとんど同じ場所で写している。でもその前に立っている人物は、20年の経過があらわれ、頭に白いものがチラホラ、そしてお腹もチョッピリ出だし、背も小さくなったかな。まあまあ、そんな事はどうでも良し。それより新しい写真が増えた。リエカの写真。私の旅日記にヨーロッパで十番目のユーゴスラビアのリエカ市が書き加えられた。リエカの若者達との交流、それらの思い出を少しずつ頭の中で整理している時、けたましく子供達をおこす目覚し時計がなった。今、午前7時。

研修旅行に参加して

＝ 友達との再会 ＝

農宗富美子

今回の研修旅行での個人的な目的は、リエカの友達に再会することでした。中学校2年の時、リエカを訪問し大勢の友達ことができました。その中の1人とずっと文通をしてきました。一緒に訪問したメンバーと、5年後にもう一度来よう、と約束していましたが、実現できずにいました。そして今回7年にして、やっと夢が実現したのでした。

私にとってリエカは、初めての海外旅行地ということもありましたが、とても強烈な印象を焼きつけられた街でした。田舎ではありますが、ゴミひとつないきれいな街並、すきとおるように青い海、景色はもちろんのこと、人なつっこく明るく陽気な友達……どれをとっても、とても素敵で楽しく感激いっぱいの日々でした。つたない英語で一生懸命話しました。帰国後ぜったいにもう一度リエカに行くんだ、とずっと思っていました。

今回の研修参加が決まり、さっそく友達に連絡をしました。そしてやっと再会が実現したのでした。友達は、ビックリするほどきれいになって、英語も上達していました。私は…というと、英語はすっかり忘れてしまい、ずっと人の助けをかりて友達と話しをしていました。せっかくの夢が実現したというのに、なさけない話でした。しかし、友達との再会は、実りあるものとなり自分にとって、とても大きなプラスとなりました。ほんの少しの時間でしたが、次の再会と、私の英語の上達を約束し、お別れしました。この旅行は、7年越しの夢が実現した有意義なものとなったのでした。

今回の研修旅行で、スカウト達もたくさんの友達ができ、素敵な日々を送ったことと思います。この感激と、友達をいつまでも大切に、いつの日にか再会できることを願って、勉強にスカウト活動に頑張りたいと思います。そして、また皆でリエカを訪問できたら、素敵だなと思っています。

海外研修旅行に参加して

竹中千穂美

8月30日午後1時30分、リムジンバスが多摩区役所に到着、バスを降り第一声、

「あつーい！」

8月17日から、2週間振りで帰ってきた日本の蒸し暑いこと。同じ夏であってされ、遙かスイス、イタリア、ユーゴスラビアとはこれほど違うのだと肌で感じられた。

憧れの国スイス、一度は行ってみたいと思っていた夢が実現した。澄んだ湖、澄みきった空気、花々に囲まれた家並、雄大な自然、そして、ワールドセンター。今年の春、一緒にリーダーの資格を取った友達と、

「一回でいいから、アワジャレーへ行こう」

と約束した。それがこんなに早く約束がかなうなんて……。

芸術の国イタリア、数々の歴史的建造物が建ち並ぶ。人々は陽気で親切で、治安が良くないなんて初めは信じられなかったけど、他のバスなどが襲われたと聞いた時、ここは日本じゃない、外国なんだと思い知らされた。名所などの下調べをきちんとしておけば、もっと細かい所

まで見学できただろうと思うと、残念ではない。

ユーゴスラビア、リエカでの交流会という場で、たくさんの人と出会い、色々な事を学んだ。習ったクロワチア語を話し、普段全く使わない英語をしゃべり、相手の言葉をわかろう、相手の気持ちをわかろう、自分の言葉をわかってもらおうと必死になった。この時ほど、英語が話せたらと思った事はなく、英語を話せない自分がじれったかった。それからリエカの青少年活動には感心させられた。同じ年代でありながら、彼らは国の為に奉仕活動や訓練をしている。自分達の身の周りの地区や地域への奉仕活動なんて、何とちっぽけな物か。キャンプ一つ取り上げてみても、彼らは国と関わり、森林整備にあたる。自己の精神的、肉体的訓練、集団生活を主な目的としている私達のキャンプとの、何と大きな違いがあることか。しかも彼らはそれを自発的にやってしまう、すごいことだと思う。

多勢の友達ができた。言葉も良く話せないのに、笑いかけてくれた人達ばかりだった。交流派遣団として参加できたことを嬉しく思う。リーダーとして参加したのでみんながうらやましくもあったけど、リーダーとしての自覚が少し持てるようになっていたのが良かった。

これからもスカウト仲間を増やし、北海道や沖縄にも友達が出来るように、活動し、努力していきたい。

最後になりましたが、引率なさって下さったリーダー方、準備を整えて下さった方々、そして、笑って送り出してくれた両親に感謝いたします。

ありがとうございました！！

ま と め

アワシャレー・リエカ(ユーゴスラビア)川崎市との姉妹都市

はじめに

予定通りチューリッヒ空港に着きました。いよいよスイスからのプログラム開始となりました。

アワシャレーではスタッフの皆様が暖かくもてなして下さり、リエカ市では古い親友に久しぶりに会った様な心やすさで滞在中お世話になりました。私共のためにご指導、ご協力くださいました多くの皆様に心より感謝申し上げます。

アワシャレー

ガール・スカウトならぜひ行ってみたい私達のワールドセンター、アワシャレーに着きました。

バスを降りてセンターに向っている時の心のドキメキはみんな同じ様でした。今迄は写真で建物だけしか見られませんでしたので…………。

スタッフの方がセンターが出来までの説明をしてくださり調度品についての説明もあり、センター内を見学しました。きちんと整頓され、きれいに磨かれた室内、スタッフの方々の配慮が感じられました。

センターを囲むアデルボーデンの自然の美しさは素晴らしく心が安まる所でした。ここで宿泊研修ができたらと参加スカウトも思った様です。

イタリア

ミラノ、ベローナ、ベネチアは観光のみでしたが、さすが建築物の見事さ、芸術の素晴らしさは目をみはる思いでした。

自己のテーマで美術や建築様式等の課題をもっていたガール・スカウトは、特に勉強になった様です。

リエカ市

リエカ市と川崎市が姉妹都市になって今年で10年です。

23日午後6時すぎホテル着、リエカ市の職員や各青少年団体の代表が待っていてくださいました。5日間お世話くださる方々です。

青少年同盟、スカウト会、赤十字青少年団のメンバーでしたが毎日いっしょに行動してくださり、各施設を案内していただきました。

ユーゴスラビアでは小学校1年に入学と同時に全員赤十字会に入会、ボランティア活動をし、自分達の住む国や町のためにつくすそうです。

スカウト会は、ボーイスカウト、ガールスカウト活動の中から自分の国に合った点を取りあげ活動をしている。

プログラムの内容は、昭和48年以前のガールスカウトの進級制度に似ており、きびしいテストもある。現在、学校教育の中でスカウト会のための説明の授業もあり、活動のPRがよく行き届いている。

私達がスカウト会に招かれた所は、青少年同盟がボランティアで造った人造湖畔で嵐の中、小屋でバーベキュー、レストランで交流会を行いました。

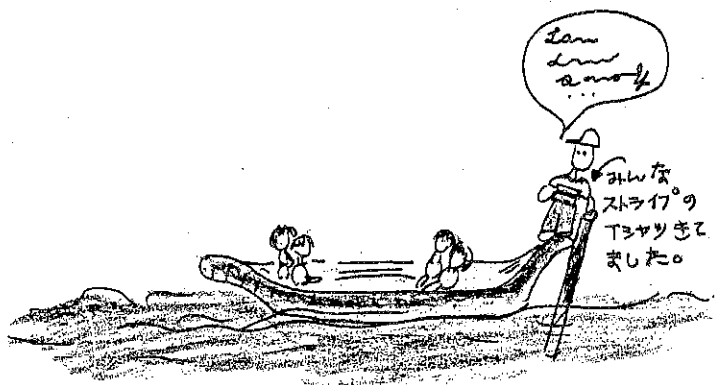
国境にて

この度の研修旅行で初めて経験しましたのは、移動にバスを利用したため、国境で検閲を受けた事でした。

私共は、団体で子女のガール・スカウトであったためかパスポートを見せるだけで済みましたが、他の人々は車のトランクの中も全て検閲を受けておりました。

多勢の方々の善意に支えられ、心に残る研修旅行ができました事を、お世話になりました皆様に心よりお礼申し上げます。

西 葉 子



事前研修

月日	時間	内 容	場 所
5月23日 (土)	午後 5:30 ┆ 8:30	申込金受付 } 日本公通公社 旅行手続等説明 } パトロール編成、役割分担、テーマについて	中原市民館
6月6日 (土)	午後 5:00 ┆ 8:30	個人テーマについて再確認 リエカについて学ぶ レッスン(今時ミルカ先生) ソング	中原市民館
6月27日 (土) ┆ 6月28日 (日)	午後 5:00 ┆ 午後 3:00 ┆	日本・川崎の紹介について ソング、踊りのレッスン 交歓会の準備 ハンドクラフト リエカ、スイスについて 交換カードについて	麻生区金程会館 新百合ヶ丘下車
7月4日 (土)	午後 2:00	健康診断	聖マリアンナ 医科大学病院
7月18日 (土)	午後 5:30 ┆ 8:30	旅行の心得 持物について 交換会についての確認	中原市民館
8月15日 (土)	午後 2:00	結団式壮行会	とどろき会館